

災害から身を守るために



避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。市からの情報やテレビ・ラジオ等正確な情報を入手し、落ち着いて行動しましょう。

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう。

✓ 家屋に被害・倒壊のおそれ・火災の危険がなく安全を確保できる

✓ 食料などの備えが十分

✓ (水害の場合) 浸水深より居室が高い



在宅避難

自宅が安全であれば、住み慣れた自宅で避難生活を送る「在宅避難」を。

災害時でも自宅で安全・安心に生活するために…

- 自宅の安全確認と対策 →P.2へ
- 食料品、水、携帯トイレ等の備蓄 →P.5, P.6へ
- 自宅周辺のリスクをあらかじめ防災マップ等で確認

▼ 自宅が危険な場合は「安全な場所」へ避難 ▼

親戚や知人宅

避難所

宿泊施設



避難先は避難所（市立小中学校）だけではありません。避難所の混雑緩和のため、分散避難にご協力ください。

避難するときは…

- 非常持ち出し品を準備 →P.5へ
- 1人で避難しない。家族や隣近所の人たちに声をかけて一緒に避難
- 原則「徒歩」で避難
- 火の元を確認し、ブレーカーを落とす。
- 避難に適した装備・服装を。
→ヘルメットや帽子、軍手、長袖・長ズボン、運動靴（水害時も同様。長靴は水が入ると歩きにくく危険）など

風水害・土砂災害時 自主避難所とは？



市民のみなさんの問合せ状況等を踏まえ、事前避難を希望される方を対象に一時的に開設します。
・市が避難情報等を出した際に開設される「避難所（市立小中学校等）」とは異なります。
・すべての避難所で開設されるわけではありません。
・食料、飲料水、日用品等の提供は原則として行いません。各自、必需品1日分をお持ちください。

●市ホームページ

家庭での話し合いと準備

いざというときのために、定期的に家族で防災について話し合みましょう。

✓ 家族一人ひとりの役割分担を決める

- 災害時の役割をそれぞれ決めておく。（火を消す人、ドアを開ける人、高齢者や子どもを守る人、非常持ち出し品を管理する人…など）

✓ 避難場所、避難方法、避難経路を確認する →防災拠点マップへ

- 地域の避難場所を確認する。
- 家族が離ればなれになったときの集合場所を決めておく。
- 家族で避難経路等の下見をしておく。

✓ 家族との連絡方法を確認する →P.4へ

- 災害用伝言ダイヤル「171」等の使い方を確認する。
- 連絡方法は1つだけでなく複数決めておく。

✓ 危険箇所をチェックする →P.2, P.3へ

- 家の内外に危険なところがないか確認する。
- 危ない場所があったら、修理や補強をする。

✓ 非常持ち出し品と備蓄品を準備する →P.5へ

- 必要なものが揃っているかチェックする。
- 定期的に保管状態や消費期限を点検し、必要なら交換する。

✓ 防災用具をチェックする

- 消火器・救急箱の置き場所や使用期限等を確認する。
- 消火器の使い方を覚えておく。



地震から身を守るために



災害から身を守るため、また災害後に自宅で継続して生活するために、自宅の安全性を確保しましょう。

自宅の安全対策

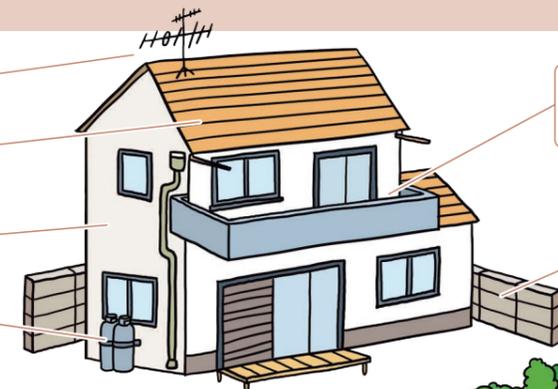
屋外の備え

アンテナをしっかりと固定する。

屋根瓦やトタン屋根の破損や腐食を補修する。

壁や基礎のひび割れや腐食を補修する。

プロパンガスボンベを鎖でしっかりと固定する。



ベランダから物干し竿や植木鉢等が落下しないようにする。

ブロック塀に鉄筋を入れる。破損箇所を補修する。防災上の観点から、ブロック塀はできるかぎり生け垣にしたほうが安全です。

ブロック塀等撤去助成金制度

市では、一定の要件に該当するブロック塀等の撤去に要する費用の一部を助成しています。
https://www.city.koganei.lg.jp/shisei/seisakukeikaku/machitoshi/jutaku_shien/seidonoannai.html
【問合せ先】まちづくり推進課住宅係 ☎042-387-9861



生け垣造成奨励金交付制度

市では、生け垣をつくる費用の一部を助成しています。
<https://www.city.koganei.lg.jp/kurashi/474/zyoseiteateyuusi/ikegaki.html>
【問合せ先】環境政策課緑と公園係 ☎042-387-9860



屋内の備え

窓などの板ガラスに、飛散防止フィルムを貼る。

カーテンは防災処理を施したものにす。

ストーブは耐震自動消火装置付きにする。近くに燃えやすいものを置かない。

破片によるけが防止のため、スリッパ等を用意する。



分電盤やコンセントに感震ブレーカーを設置する。

家具の上に重いものや危険なものを置かない。

家具はL型金具やツツパリ棒で固定する。

テレビやパソコン等もOA用固定器具で固定する。

消火器や三角バケツを用意する。

- ・大きな家具は人の出入りの少ない部屋に置く。また、できるだけ玄関、廊下等に物を置かない。
- ・消火用水や生活用水として、風呂の水は常に貯めておく（濡れ防止のため、子どもだけで浴室に入れないようにする）。
- ・壁や柱にぴったりと固定できない家具は、床との間に滑り止めストッパー等を敷く。

感震ブレーカーとは？

感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。

感震ブレーカーを設置して、電気火災から「家」・「地域」を守りましょう。

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ(内蔵型)	分電盤タイプ(後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ

出典元：経済産業省